

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1290700234		
法人名	有限会社 三河接骨院		
事業所名	グループホーム やわら余山町		
所在地	千葉県銚子市余山町193		
自己評価作成日	令和3 年 10 月 15 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	2023/2/13(書類評価)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・事業所の理念として「なじみの町で共に生きる」を掲げている。 ・家族と利用者との絆を尊重している。 ・その方の今まで生きてきた「道のり」を大切にしている。 ・利用者様と職員が生活を共にしているので、お互いに尊重できる関係を作りたい
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設3年目を迎える1ユニットのグループホームで、小規模多機能施設を併設している。開設以来ずっとコロナ禍中での運営で苦労の連続であったが経験豊富な管理者と系列ホームで研鑽を積んだケアマネージャーが中心となり、職員とコミュニケーションを重ね評判の良いホームとなっている。家族アンケートでは明るく親切的な職員の対応や本人の様子の定期的な報告などきめ細かな対応は高い評価を受けている。しかし長期化するコロナ感染防止の為に諸制限に対する、家族からの欲求不満の声も大きくなっている。5類への移行なども踏まえて「面会したい、直接話したい、運動して欲しい」等といった利用者家族の切なる要望に応えられる日が近いことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「なじみの町で共に生きる」の理念のもと、利用者様が自分らしく生活を送ることができるよう職員は日々支援している。	ホームページに代表の言葉として「なじみの町で共に生きる」の理念が述べられている。その理念に基づく支援をしているかは、会議や日常支援をめぐる話合いの中で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩等を通じ、地域住民との挨拶や声掛けを交わす関係を築いている。	町内会には加入しているが、コロナ禍という事もあって地域との交流は自粛している。近隣は、高齢者の多い地域でもあり、今後の交流拡大については、現在思案中となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以降は、舞踊や紙芝居、近隣の保育園児の訪問と実践に繋げていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ禍である為、定期的に書面で開催している。	小規模多機能と合同で開催している。参加予定者は有識者（議員・町内会長・民生委員・地域包括ケアセンター長・家族）の6名、利用者代表と法人関係者としている。しかし、感染予防の為に法人関係者のみで年間6回を書面開催し、議事録作成し、関係先に送付し、内容確認後、各種意見を伺っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナ禍である為、定期的に運営推進委員会を実施し、やわら余山町の状況を報告している。分からないことがあれば、市の窓口になっている高齢者福祉課に相談している。	現在は運営会議の議事録を作成し・市へも送付して、運営状況をご理解いただいている。相談の必要な都度市の高齢者施設に相談して、解決している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会、内部研修を定期的に開催している。適切なマニュアルを活用し、職員全員が理解を深めている。	「身体拘束を必要としない」方針を掲げ、運営推進会議の中で、毎回虐待及び拘束の状況について報告しているが、拘束の対象になる方はいない。合同施設内研修計画表をもとに虐待・身体拘束防止のの研修を行って、全員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者は、虐待防止に徹底した理念を掲げて職員を指導している。施設内研修も行い実践につなげている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修やミーティングを通して管理者、職員共に理解を深め、支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約をする際は、ご家族が不安に思っていること、疑問点を伺い、十分な説明を行うよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また家族来訪時、電話連絡、運営推進委員会にて意見、要望を伺い、運営に反映させている。	各種行事を開催した事を、家族へのお知らせなどで案内している。家族アンケートでも、定期的な写真入りの報告を喜んでいるとの意見もある。職員は積極的に家族の意見を伺う事に努めており、家族来訪の折や電話などで、利用者の近況を知らせると同時に、家族の要望を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見をいつでも聞ける体制をとっている。日々の申し送りや月1回の職員ミーティングで意見交換を行い運営に反映させている。	職場雰囲気が良く、日常での良き職場内コミュニケーション作りが出来ている。職員の意見や要望を積極的に聞く機会を増やしている。申し送りや職員ミーティングでの意見をくみ上げ、ホーム運営に活かすことに注力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見に常に耳を傾け、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護に対する意欲の持続の為、職員間で話し合う場を設けている。また、スキルアップのために、法人外の研修機会を見つけ職員の働きながらのトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、外部との積極的な交流は図れない状況だが同法人での勉強会や情報共有を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。 また、リモートでの研修に参加している。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、傾聴に努め、本人の不安解消及び信頼関係構築に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、不安なこと、困っていることに傾聴し、ご家族の不安等が軽減できるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報や、相談時の内容から本人、ご家族が必要としているサービスを見極め、本人ご家族様にふさわしい介護サービスの提供に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の行動や言動から声にならない要望を受け止め、日々の介護に活かしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるには家族の協力の重要性を理解していただき、絆の結びつきを断ち切らない環境を作るよう努力している。電話やオンラインで家族と連絡を取り合い、本人を共に支える努力をしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族をはじめご親戚、ご本人が気軽に面会、電話連絡等ができ、ご本人との関係継続につながるができるよう支援に努めている。また、感染状況に合わせて、面会禁止にしたり、玄関でパーテーション越しの短時間面会を継続している。	新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつできる限り面会の機会を増やすことに努めている。定期的に電話で利用者の暮らしぶりを報告し、リモート通話や毎月の写真、イベント時の写真を家族に郵送し、関係継続に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、常に全体の状態や状況を把握して、一人ひとりが孤立しないように、気遣いに努めている。	家族アンケートでは5類への移行なども踏まえて「面会したい、直接話したい」等といった切なる要望も多い。これらの課題に対する検討も期待したい。

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在まで退所の事例はないが、退所後も気軽に相談に応じる体制はできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の情報提供や相談時の内容から本人像を理解、把握に努めてる。また、日々ご本人と接する中での会話や行動から一人ひとりの思いや希望に添えるよう努めている。	利用開始時に家族、ケアマネージャーから聞き取りを行っている。支援中は本人から趣味や好みを聞くように努めている。意思疎通の困難な利用者は家族の意向を確認すると共に表情やしぐさから読み取るようにしている。	
24		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供から、本人像を理解、把握に努めている。また、本人、ご家族からも聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様と日々接する中で、一人ひとりの状態把握に努めている。また、職員間での状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れ介護計画書を作成している。また、申し送りやミーティングで出した意見も参考にしながら見直しを行っている。	毎月カンファレンスを実施している。職員から利用者の様子を聞き取り、必要に応じて見直しを行い、利用者の現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の本人の言動、表情などを個別に記録している。また、バイタル、食事、水分摂取量、排泄状況を記録し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の要望やその時々状況に応じた柔軟な支援の実践に努めている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが心身の安定につながる生活ができるよう地域資源の把握活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様が希望している医療機関を受診している。受診の際はご家族に受診を依頼したり、事情により施設看護職員、介護職員が付き添い受診している。	ホームにはかかりつけ医もいるが、在宅時より利用している医師の継続利用も可能としている。病院受診時は職員もしくは家族が同行する。訪問医を利用することもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の状態変化や気づいたことがあればその都度、看護職員に報告相談し、早期発見、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在まで入院の実績はないが、緊急受診が必要な際は、家族、職員付き添いで受診をし、今後ホームでの生活で注意することなどの説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では現状の実績はない。	法人方針として看取りは行っていない。入居時には家族にその旨を説明している。重度化や終末期が近づいた時には、家族と相談してその後の対応を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成している。研修会やミーティングで定期的に確認、訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している小規模と合同で年2回、避難訓練を実施している。今年の9月に消防署の立ち合い訓練を実施した。	家族から避難訓練に真剣に取り組んでいると評価されている。有事の際は職員が先頭に立ち少しでも落ち着いて行動できるようにしていきたいと考えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修やミーティングで接遇について学び、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	個人情報保護法を設定し、利用者は「さんづけ」で呼ぶ。排泄介助の際は目立たないように声掛けするなど配慮している。Webカメラで様子を見たいという要望があったが、利用者に配慮し来所や電話で対応するようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりとコミュニケーションを十分とることに心掛けている。日々の会話や傾聴の中から本人の思いや希望を汲み取り、本人主体の生活を送ることができるよう支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムに合わせた支援に心掛けている。 日々の暮らしの中で希望、要望等を尊重している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好むものや着たい服があればご家族の協力も得ながら用意している。 定期的に理容師に来ていただき身だしなみを整えている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じた食事の提供に心掛けている。食欲がない時などは家族の協力を得るなどして、本人の好むものを食べていただけるよう支援している。	利用者の状態に応じ、普通食・きざみ食・ミキサー食を食事専門の職員が用意している。行事計画にはおやつ作りを盛り込み、利用者も職員も食事を共に楽しむ工夫をしている。敬老会では利用者のリクエストに応え今川焼を用意した。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分摂取量を把握し、記録している。摂取量が少ない時は、その時の本人の状態に合わせて栄養、水分確保ができる支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯の洗浄を行っている。食事前には口腔体操を行い誤嚥予防にも努めている。	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録している。 個々の能力に合わせた排泄支援を行っている。 なるべくトイレで排泄することができるよう支援している。	日課表にトイレ誘導を明記し、排泄の自立をうながしている。日中はできるだけトイレで排泄が出来る様にDパンツを使用し、夜間はオムツにするなど、利用者に合わせた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取量を記録し、摂取量には注意をしている。また、毎日牛乳を飲んでいただくことで便秘予防に努めている。日々の生活の中で、個々にあった運動を取り入れることに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は3回実施している。ご本人のペースに合わせてゆっくりと入浴していただけるよう心掛けしている。体調によって入浴できない日は入浴日を変更したり、清拭や衣類交換を行い清潔保持に努めている。	入浴を拒否する利用者には無理強いをせず、対応者を替える、利用者の気分が変わるのを待つなど、個人の意志を尊重している。体調に応じて清拭、衣類交換で対応することもある。身体の清潔を保ち快適に過ごせるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの生活習慣に合わせた対応を心掛け、自室に安心して休息をとることができるよう支援している。また、消灯時間にこだわらず利用者様の生活リズムで就寝、起床して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は看護師が管理している。配薬、内服時には職員2人で確認し、氏名、日付、朝、昼、夕、就寝前と読み上げて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で張り合いのある時間を過ごして頂けるように、レクリエーションや行事等で楽しめる企画をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ禍であり、外出支援は自粛せざるを得ない状況が続いているが、近所の公園などに散歩に出かけたりと外の空気を感じ、気分転換できるよう支援している。	コロナ禍のため、外出範囲に制限を設けている中で、ホーム周辺の散歩や花見などの外出をしている。社有車でドライブに出かけることもできる。緩和後の外出支援の緩和に対して、いろいろ要望も上がっており、今後の課題となっている。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの管理能力が異なり、トラブルを回避する為にも職員が預かり、必要な時には職員と一緒に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をかけたいと訴えがあった場合は時間を配慮して応じている。家族から手紙が届いた場合もお礼を兼ねて、気軽に電話連絡できる体制をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の空間は生活感、季節感を取り入れ、居心地よく過ごせる工夫をしている。ホールは明るく開放感があり、ゆったりと過ごす空間づくりができています。また、トイレ等の共用空間は清掃を細目に行い清潔に努めている。また、ホールには季節ごとの飾りつけをしている。	利用者が日中過ごすホールは、大きな窓から太陽光が差し込み、壁面は折り紙で季節を感じる作品で装飾し、あたたかく穏やかな雰囲気になっている。感染症予防のための消毒を定期的に行っている。掃除や整頓は職員と利用者が一緒にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で、気の合う利用者様同士が自由に過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやタンス、家族写真など本人が使い慣れた物や、安心できる物を居室に設置し、居心地よく過ごすことができるよう工夫している。	居室は、窓が大きく、季節を感じられる。本人が使い慣れた物を持ち込むことができる。利用者は家族の写真などを飾り、安心して心地よく過ごしている。ナースコールを設置し、急な体調変化にも対応できるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、車椅子専用トイレが設置されている。利用者個々の「できること」「わかること」を考慮し、本人が能動的にかかわれるように工夫している。		